

日々研鑽

～職員が取得している資格を紹介します～



当院の職員は、患者さんにより質の高い医療を提供するために、入職後も日々研鑽を続け、それぞれ特定の分野において高度な知識と技術、経験を積むことによって得られる様々な資格を取得しています。この連載では、資格を得るための条件や流れ、資格取得後の働き方などについてご紹介していきます。

臨床検査技師の認定資格

細胞検査士

今回は細胞検査に必要な細胞検査士の資格についてお話をさせていただきます。

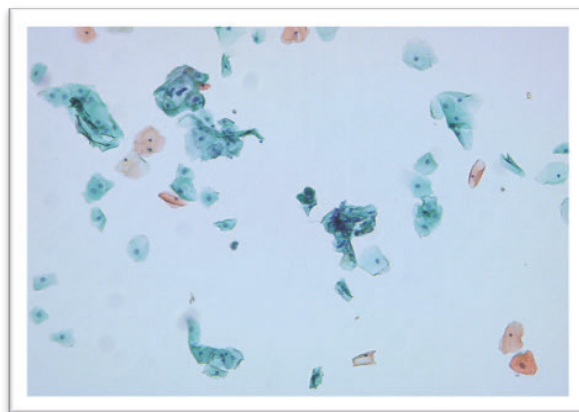
突然ですが、みなさんは子宮頸がん検診や肺がん検診を受けたことはありますか？

このがん検診で行う検査方法のひとつに細胞検査があります。子宮頸がん検診では婦人科医が子宮内部をブラシや綿棒などの採取器具でこすり細胞をとり、顕微鏡で観察するためにガラスに塗りつけます。同様に肺がん検診では喀痰をとってガラスに塗りつけます。

がん検診以外にも乳腺のしこりや喉の腫れが気になって病院にかかったときに、気になる場所に針を刺し、細胞をとってガラスに塗りつけて細胞検査を行うことがあります。

細胞検査はこれらのガラスに塗られた細胞に色づけ(染色)を行い、顕微鏡で観察します。顕微鏡でみると、ガラスにはたくさんの細胞があり、その中に癌細胞や怪しい細胞がないか隅々まで観察します。この観察する作業をスクリーニングと呼び、スクリーニングを行うために必要な資格が細胞検査士です。

さて、ここで問題です。右の写真は子宮内部の細胞をとって顕微鏡でみたものです。どこに怪しい細胞があるかわかりますか？答えは次のページの最後に載せます。



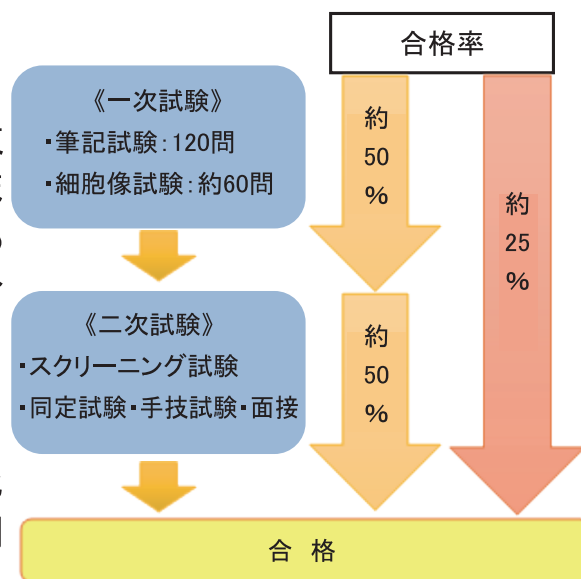
細胞検査士になるためには

細胞検査士資格に受験できるのは臨床検査技師と衛生検査技師で、「公益社団法人 日本臨床細胞学会」が主催する認定試験を受け、合格する必要があります。試験は一次試験と二次試験に分かれて実施されます。

一次試験(筆記と細胞像試験)

筆記試験は総論、技術、婦人科、呼吸器、消化器、体腔液・その他の6分野の領域ごとに各20問ずつ、合計120問を行います。

100点満点に換算し原則70点以上を合格としますが、合計得点だけでなく、6分野の各領域において100点満点に換算し50点未満の領域がないことが必要となります。



細胞像試験はカラープリントされた細胞画像をみて設問に答えるもので、約60問出題されます。

二次試験(実技;スクリーニング試験、手技試験、同定試験および面接)

スクリーニング試験では実際に顕微鏡を用いて細胞の塗られたガラスを一定時間内に観察し、癌細胞や怪しい細胞がないか、あった場合に予想される病気はなにかを回答します。

同定試験では、ガラスにマークされた一部分をみて、病気の種類や癌の種類を回答します。

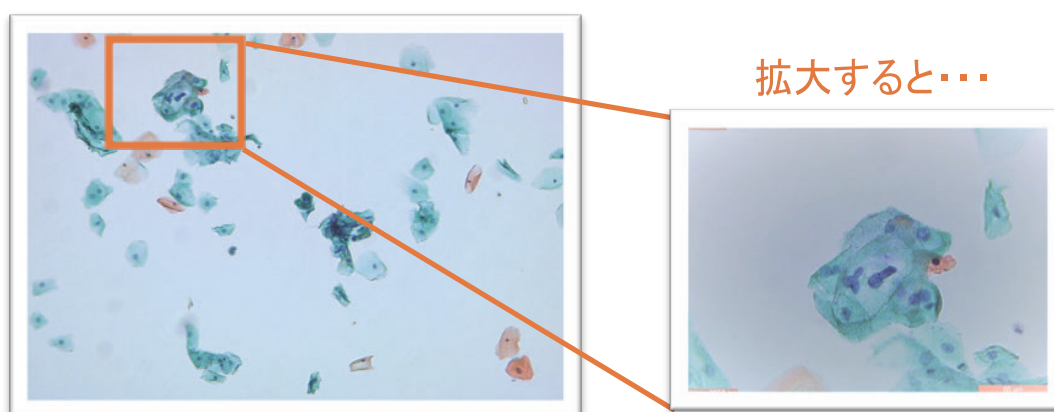
そのほかに検体を観察に適した方法でガラスに細胞を塗る手技試験や面接が行われます。これらの試験を100点満点に換算し、一次試験同様、原則70点以上を合格とします。

細胞検査士認定試験の一次試験と二次試験はどちらも合格率はおよそ50%、一次試験と二次試験を合わせた全体の合格率は25%程度と高度な技術と知識を必要とする難易度の高い試験です。私自身、就業後に何時間も勉強をし、休日には他施設に出向き指導を受けたり、教育団体の講習会に参加したりととても忙しい日々を送りました。あの忙しかった試験勉強の記憶はこれからも決して忘れることはないと思います。

また、細胞検査士の資格の有効期限は5年間で、資格更新には細胞学会が認定した講習会や学術総会に参加することでもらえる所定の単位を集め、資格更新の審査を受ける必要があります。合格してからも常に新しい情報を得て知識を広げていかななくてはなりません。

最後に

前ページの問題の答えはこちらになります。みなさんわかりましたか？



この細胞は子宮頸がんの原因となるHPVに感染した子宮の細胞です。この状態を異形成と呼び、癌になる前の状態です。子宮癌になってしまうと子宮をとる手術が必要ですが、異形成の時点で発見できれば子宮の一部分だけを切り取る手術で済むため、子宮を残し、妊娠・出産も可能です。

以前は、がんは不治の病と言われていましたが、現在では早期発見・早期治療を行うことで癌の多くが治ります。ぜひみなさんもがん検診を受けてください。

(文責:臨床検査科
主任 鈴木 遥)